

魚龍混雑 (魚竜混雑)

中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から

ういくす
文と訳・有為楠 君代

今月は、あまり聞き慣れない言葉です。

・>・>・>・>・>・>・

春秋末期、楚の国の人伍子胥が、楚の平王に父親と兄を殺されたので呉の国に逃れて、呉王闔閭に言いました。「楚の国は黒と白が入り交じり、妖怪と人間の区別もつかず、良いものと悪いものが混ざり合っています。私は万策尽き果てました。大王さま、私めを大王さまのお傍に置いて、呉の国のために力を発揮させてください」。

呉王は、彼を呉の国の大臣に取り立てました。父と兄を殺された仇を討つために、伍子胥は、呉王に楚国を攻撃するように勧め、呉王はそれを入れて、彼と孫武に軍隊を率いて楚の都に攻め入らせました。その時、楚の平王は既に亡くなっていましたが、伍子胥は恨みの気持を晴らすために、平王の墓を暴いて、埋葬されていた遺体を鞭打ちました。

その後、呉の国は伍子胥のような外から来た人たちに活躍の場を与え、西の強国楚を破り、北の方では楚の属国だった徐を滅ぼし、魯や斉にも攻め入って、終には一説に春秋の覇者に数えられるほどの強国になりました。

・>・>・>・>・>・>・

言葉の意味: 良い人と悪い人が一緒に混ざり合っていること。

使い方: 祭りの日には、いろいろな人が集まってくる。良い人も悪い人もいるから、特に注意しなければいけないよ。

・>・>・>・>・>・>・

良いこと悪いことが混ざり合っていて黒白のつけ方ことを言いますが、日本では余り見かけませんね。日本でこの言葉の代わりをするのは、「玉石混淆」で、現在は「玉石混交」と書いています。この四字成語は、東晋の時代に葛洪という人が書いた「抱朴子」という本に出ているそうで、「読んで字の如し」で分かり易いのですが、中国ではこの「魚龍混雑」の方

が良く使われるようです。

それにしても、どうして魚と龍が一緒にいるのかと考えた時、中国では滝を登り切った鯉が竜に成るといふ言い伝えがあるのを思い出しました。この話を初めて聞いた時、私の頭に中には、那智の滝や華厳の滝など 100m 以上も垂直に流れ落ちる滝しかなくて、中国の人々も「そんなことが出来る鯉はいないから、それだけ龍が素晴らしいのだ」と考えているのだと思いました。



挿絵：満柏氏

しかし、中国には「登龍門」という言葉もあるし、全く不可能とは考えていないようなのを感じて、不思議に思っていました。それが十数年前に、中国で有名な「壺口瀑布」を見る機会があり、その謎は解けました。

この「壺口瀑布」は黄河で最も有名な滝で、300m を超える川幅で滔々と流れていた黄河の兩岸から岩がせり出してきて 50m 程に狭まり、巨岩が折り重なるように続くかなりの急こう配を流れ下るのです。一つの落差は大きい処でも 30m 足らずですが幾重にも連なり流れ落ちるのは圧巻です。

ぶつかり合って流れるその水は黄河の由来となった黄土色で、中国の観光会社は「黄金の滝」と宣伝しています。こんな滝を間近で眺めると、こんな滝を魚が登るのは不可能だと感じます。

でもその不可能さは、100m を垂直に流れ下る滝で感じる不可能さとは違ったもので、若しかしたら、中には登りきる鯉も出て来るかも知れない。不可能な中にもほんの少しの可能性を感じさせる不可能さなのです。

中国の人達は、絶望的な状況から事態を変える歴史を繰り返してきました。それで、こんな激しい水の流れに逆らって上流へ登りきる魚が出現する可能性を信じることができるのでしょうか。

やはり中国の地理と歴史があつてこそその発想なのだと強く感じました。